人とふれあい、見聞広げ

多感な高校生にとって、教育（修学）旅行は学生時代の一大イベントといえる。楽しみでもあり、また不安でもある。非日常の場に身を置き、その土地ならではのものに触れ、見て、人と接することで視野が広がることもある。ここでは充実した教育（修学）旅行を実施する４校の取り組みをレポートする。

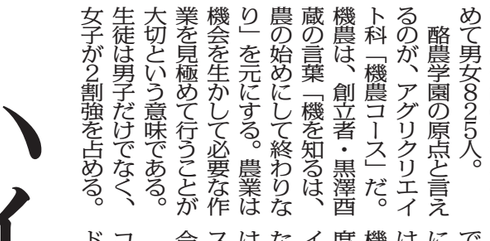
とわの森三愛高等学校
デンマークなど9泊10日
18年3月14～23日実施

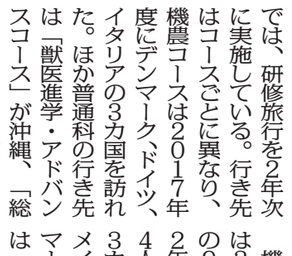
久保木崇教頭

デンマークの酪農家で研修

ハイレベルの現場研修
国際感覚ある農業人に

農場レストランでの研修


現地学生と交流


スペイン広場で記念撮影

その高等学校である、とわの森三愛高等学校（西田丈夫校長）は、「神を愛し、人を愛し、士を愛す」という三愛精神を教育の柱にして、国際化社会を担うにふさわしい良識ある社会人、実践的な農業人の養成を目的とする酪農を専門とするアグリクリエイト科機農コースと、農との関連を併せ学ぶ普通科4コースを設置している。生徒数は通信制の普通科を含めて男女825人。

酪農学園の原点と言えるのが、アグリクリエイト科「機農コース」だ。機農は、創立者・黒澤酉蔵の言葉「機を知るは、農の始めにして終わりなり」を元にする。農業は機会を生かして必要な作業を見極めて行うことが大切という意味である。生徒は男子だけでなく、女子が2割強を占める。

とわの森三愛高等学校では、研修旅行を2年次に実施している。行き先はコースごとに異なり、機農コースは2017年度にデンマーク、ドイツ、イタリアの3カ国を訪れた。ほか普通科の行き先は「獣医進学・アドバンスコース」が沖縄、「総合進学コース」が台湾、「トップアスリート健康コース」が関東、「フールドクリエイトコース」が韓国だった。

機農コースの研修旅行は3月14日から23日までの9泊10日で行われた。2年生の男子29人、女子4人、計33人が参加した。

3日目は、コペンハーゲン郊外を見学した後、ロスキレにある農機販売店（ニューホランド）と乳を販売しており、飲んだ生徒は、「こんなにおいしい牛乳ができるのは、良い土から、草や飼料が採れ、それを食べる良い牛がいるからだ」と納得していた。

午後は航空機でドイツへ。5日目はミュンヘン観光名所を見て回った。

機農コースの研修旅行は3月14日から23日までの9泊10日で行われた。2年生の男子29人、女子4人、計33人が参加した。3カ国の中でも研修先のメインとなったのがデンマークだ。久保木崇教頭は「酪農を中心としたディング団体）の協力を得て、リーン生産方式（トヨタのカイゼン）を長年実践している酪農家で研修。デンマーク食肉技術学校で講義を聞いた。肉加工の分野でも発展を続けてきた欧州農業。目の前で展開される加工授業は、効率的・合理的でありつつ、と殺された家畜は余すところなく利用できるように加工され、動物福祉の視点や命を無駄しない、命の大切さについての深い理解に感銘を受けた。

4日目の午前は、オスンバッハの農場レストランの研修では、6次化やグリーンツーリズムの講義を真剣に聞いた。

7日目はフトゥルムの農機展示場（クラース）、有機農業教育・研修センターで研修。その後、空路でイタリアの首都ローマへ。

8日目にローマ市内を見学し「コロッセオ」や「トレビの泉」「スペイン広場」「サンピエトロ大聖堂」「バチカン美術館」などの観光名所を見て周り、イタリアの食文化についても学んだ。9日目はローマから帰国の途に就いた。

今回の研修旅行の成果について久保木教頭は、「ハイレベルの酪農業・畜産業の実践に触れる機会を共有できた生徒たちの学びへのモチベーションが高まっている。国際感覚をもった農業実践に触れて、質の高さを追求するヒントを各々が得てきたことが3年目の学びと将来に生きる」と話す。

2018年度以降の研修旅行について久保木教頭は「これまでの研修旅行で生徒たちが残してくれた感想や意見を生かして、プログラムをさらに充実させることが重要だ。例えば、学校交流に関しても、交流内容をもっと深めていきたい」と考えている。

海外で実施する研修旅行であるので、食文化の違いなどによる生徒の健康管理や、国際情勢に合わせた危機管理体制なども考えて、行き先やプログラム内容を決めていくという。

精神を理解すると同時に、酪農王国デンマークの先進的な酪農、畜産を学んでくることを目指した」と語る。

研修旅行の初日、新千歳空港から飛び立ち、いくつかの航空機を乗り継いでデンマークの首都コペンハーゲンに到着。

2日目はコペンハーゲン市内の見学。徒歩で「人魚姫の像」や「アマリエンボー宮殿」「市庁舎（アンデルセン像）」などやパッサウの街並みを見学した。

6日目はロットハルミュンスターの高等農業学校を訪問し、農場実習の見学し「トレビの泉」「スペイン広場」「サンピエトロ大聖堂」「バチカン美術館」などの観光名所を見て周り、イタリアの食文化についても学んだ。9日目はローマから帰国の途に就いた。

今回の研修旅行の成果について久保木教頭は、「ハイレベルの酪農業・畜産業の実践に触れる機会を共有できた生徒たちの学びへのモチベーションが高まっている。国際感覚をもった農業実践に触れて、質の高さを追求するヒントを各々が得てきたことが3年目の学びと将来に生きる」と話す。

2018年度以降の研修旅行について久保木教頭は「これまでの研修旅行で生徒たちが残してくれた感想や意見を生かして、プログラムをさらに充実させることが重要だ。例えば、学校交流に関しても、交流内容をもっと深めていきたい」と考えている。

海外で実施する研修旅行であるので、食文化の違いなどによる生徒の健康管理や、国際情勢に合わせた危機管理体制なども考えて、行き先やプログラム内容を決めていくという。

九里学園高等学校
オーストラリアなど8泊10日
17年11月実施

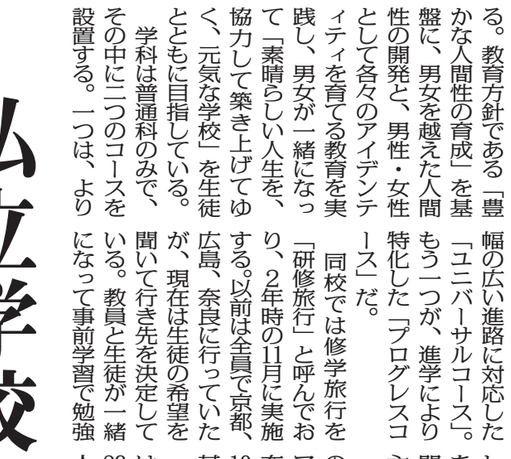
井澤治教頭

オーストラリア研修

私立学校の特性生かし
他校にない体験活動を

国内研修の芸術文化体験

国内研修の日本文化体験


ハワイ研修

山形県米沢市の中心部、上杉城址公園の至近距離にある学校法人・九里（くのり）学園高等学校（九里學志校長、生徒数男女共学で518人）は1901年（明治34年）に設立。県内で最も古い私立学校で「九里裁縫女学校」として開校し、今年で117年を迎える。

教育スローガンは「礼・譲・協同和楽」。「礼」は人間の尊厳を信じ、その高貴さにふさわしく行為をすること。「譲」は自らの持てる力を発揮して、愛する世の人々に捧げること。「協同和楽」はその中に二つのコースを設置する。一つは、より幅の広い進路に対応した「ユニバーサルコース」。もう一つが、進学により特化した「プログレスコース」だ。

同校では修学旅行を「研修旅行」と呼んでおり、2年時の11月に実施する。以前は全員で京都、広島、奈良に行っていたが、現在は生徒の希望を聞いて行き先を決定している。教員と生徒が一緒になって事前学習で勉強しながら企画内容の細部を検討するため手間と時間がかかるが、生徒の自主性を重んじている。

昨年の行き先は、海外のハワイ、オーストラリアと国内の東京・京都・奈良・沖縄。海外は8泊10日、国内は4泊5日を基本としている。

ユニバーサルコースではオーストラリア研修に28人、国内研修に170人が参加した。

オーストラリア研修の内容は、平和学習と学校間交流がメイン。日本とオーストラリアが太平洋戦争時に交戦した歴史を知らない生徒が多い。当時の収容所を見学し、慰霊碑への献花と清掃活動や献花を行った。

プログレスコースは、課題研究の場としてハワイを選んだ。昨年は11人が参加した。

ハワイでは、環境など美術館や博物館を鑑賞し、夜はミュージカルやオーケストラを観劇した。沖縄では、歴史を学ぶことを目的に嘉手納基地の問題点を現地の人々との交流を通して探したほか、山形の塔で清掃活動や献花を行った。

プログレスコースは、日本の芸術、文化を学ぶことを目的として、昼は美術館や博物館を鑑賞し、夜はミュージカルやオーケストラを観劇した。沖縄では、歴史を学ぶことを目的に嘉手納基地の問題点を現地の人々との交流を通して探したほか、山形の塔で清掃活動や献花を行った。

プログレスコースは、課題研究の場としてハワイを選んだ。昨年は11人が参加した。

ハワイでは、環境など